

# NTT西日本東海病院 外科



## 【当院の特色】

当院は、名古屋市中区において地域医療に貢献すべく後方支援病院としての役割を果たしています。また、名古屋市医師会の在宅医療・介護支援システムの中でアセスメント病院の役割を担っています。

病棟の機能としては急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟に分かれています。

外科では、消化器外科を中心に一般外科および乳腺外科を担当しています。

乳癌については、日本乳癌検診学会に基づいた検診を心がけており、癌の進行度によりインフォームドコンセントに基づいて縮小手術を積極的に行っております。名古屋市委託事業の乳癌検診は月曜から金曜までの毎日、午前中に予約なしで実施しております。

消化器では、胆嚢結石症や胆嚢ポリープのみならず、鼠径ヘルニア、胃癌や大腸癌に対しても積極的に腹腔鏡下手術を施行し、患者さんの早期社会復帰をめざしています。

大腸外科では大腸癌（結腸癌と直腸癌）を中心に、潰瘍性大腸炎・クローン病などの炎症性腸疾患や虫垂炎などを対象にしています。

肛門科では、痔核、痔瘻、裂肛を中心に診断から治療まで一貫して診療しています。便通を整え、お薬などでなるべく保存的に治療し、それでも良くならないものには四段階注射法や結紮切除術を行っています。

大腸癌の手術は、癌の進行度に応じた手術を選択しています。つまり、経肛門的局所切除術から腹腔鏡下手術から開腹手術と、必要なリンパ節郭清を行いつつ、排尿・排便・性功能を温存する機能温存術式を選択しています。特に、直腸癌に対しては、可能な限り肛門を温存する術式を行っています。

癌の化学療法：術後補助化学療法は、ガイドラインに従い科学的な根拠の証明された方法に従って行います。非治癒切除例や、不幸にして術後再発した進行例には、いわゆる標準化学療法を第一に行い、全身状態が低下した場合はより軽い化学療法にとどめて、少しでもQOLを良好に保ちつつ、いわゆるdormancyの期間を延ばすことをめざしています。可及的に在宅で行うことがQOLの向上に寄与すると考え、埋め込み式リザーバーを積極的に留置し、外来化学療法を行っています。

癌手術後のフォロー計画：3ヶ月毎の採血（腫瘍マーカー）、1年毎の肺～上腹部～下腹部CT、1～2年毎の注腸または大腸ファイバーとを5年間行うことを基本にしています。

---

病床数

150床

手術件数 (2016年)

67件

---